

日に日に朝晩の冷え込みも強くなりました。穏やかな温かさが心地よい湯たんぽを使い始めるご家庭も多いのではないのでしょうか。消費者庁の事故情報データベースには、湯たんぽを使用した際、低温やけどや加熱し過ぎによるやけどなどの事故が毎年報告されています。

低温やけどは、体温より少し高い程度の熱源が、皮膚の同じ部分に長時間触れることで起きるやけどです。普通のやけどに比べて痛みが少なく、水ぶくれなどもできにくいのが特徴です。軽症のように見えますが、長時間熱の作用が及ぶと、重いやけどになっていることも少なくありません。

低温やけどを防ぐためには、次のことに注意が必要です。

①布団を温めたら、就寝前に布団から出しましょう。湯たんぽの注意事項には「就寝時に布団から出して使用する」などの表示がされています。湯たんぽを出して就寝するようにしてください。

②製品ごとに定められた加熱方法、加熱時間などを守って加熱してください。製品ごとに定められた方法と異なる方法で加熱したり、指定された時間以上に加熱したりすると、破裂や発火など危険な事故が起こることがあります。取扱説明書をしっかりと確認して加熱しましょう。

③使用前や使用中、製品の異常に気付いたらすぐに使用を中止しましょう。湯たんぽは経年劣化などにより、小さな亀裂や破損が生じることがあります。内容物の漏れによるやけどの危険がありますので、使用前によく点検するようにし、使用中も異常があればすぐに使用を中止してください。

④ご家庭にある湯たんぽが、リコール対象になっていないか、消費者庁のリコール情報サイトで確認しましょう。リコール対象の製品であることに気付かずに使用すると、発火による火災など、大きな事故につながるおそれがあります。

湯たんぽを使っていて痛みや違和感などの異常を感じたときは、低温やけどの可能性もあります。早めに医療機関を受診してください。